

# 第49回 公開講座

## 「結婚差別」のりこえ方を考える

日時 2007年5月25日(金) 13:00~14:30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 たなか よしかず  
田中 欣和 (人権問題研究室長・文学部教授)

部落差別といわれる諸現象のうちでも、一番あとまで残るのではないかとといわれることが多いのが結婚差別である。しかし、それにも大きな変化がある。近年の諸調査では被差別部落に住む20歳代の若夫婦の7割以上は、一方が部落外出身のカップルという。一世代前の常識からはたいへんな変化である。

それでは結婚差別はなくなったといえるのか。そうではない。それらのカップルのうち結婚に際して反対されたというものの比率は各年齢層間でそれほど変りはない。これをあわせて考えると「差別はなくなっていないがのりこえ可能な場合が多くなってきた」ということになる。

旧郡部の部落できくと、進学・就職などで大都市へ行った若い人で部落外の人と結ばれる例は多いが、地元において自治体の中の他の字(アザ)の人と結婚する例はほとんどないという。別に部落内・部落外の結婚が特に望ましい訳ではないが、もし差別がなければそのカテゴリーが9割にはなるはずだと計算した人もいる。

意識調査で自分の家族のだれかが部落出身の人と結婚しようとする場合を仮定して意見をきくと「問題ない」も「考え直すようにいう」も共に少なく「迷いながら結局は賛成する」と「迷いながら考え直すようにいう」をあわせると三分の二くらいになる。「迷う」のはなぜ迷うかを考えて、この人たちに働きかける方法を考えることが差別解消のためには重要ということになる。

大学教員は学生・卒業生から恋愛・結婚についての相談を受けることが多いものだが、私はその中で部落問題がらみの相談を受けたことが6回あり、そのたびに迷ったり、考えたりしてきた。その上で現在到達している限りでのノウハウも示したいし、そういう立場から学校や社会教育場面での教材について考えてきたことも語りたい。

\* \* \*

●聴講無料 多数のご来場を歓迎します。

手話通訳が必要な場合は、5月17日(木)までに人権問題研究室へご連絡ください。

第50回 6月22日(金) 13:00~14:30 「ドイツの外国人問題」 佐藤 裕子(研究員・文学部教授)

第51回 10月26日(金) 13:00~14:30 「生活支援工学への期待—実践的な工学的解法のために—」

倉田 純一(研究員・システム理工学部准教授)

第52回 11月16日(金) 13:00~14:30 「ベールの下素顔」 金谷千慧子(委嘱研究員・非常勤講師)

会場は、いずれも 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680

吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/hrs>